

第4回目 感想

環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻 D1

中村栄子先生：新しい分析手法を求めて〇〇年

長きにわたり行っておられる分析手法の研究の奥深さと、地道な研究こそが大きな成果を上げるのだと感じました。中村先生のご専門は、化学の中でも分析の研究のなさっておられ、華やかではないけれど必要であり、決してなくなるのものではない。このような研究をなさっておられるから、発せられるお言葉として、「研究者とは、プロなのであれば、『常にヒットを飛ばし続けること』ホームランも大事だけど、持続していくことが大切である」の言葉が印象的でした。

そして中村先生は接していて、内面も外見もたいへん柔軟でとてもお若い印象を持ちました。もうすぐ定年を迎えられるようには見えませんでした。

また、学位を取られるまでに論文を7本以上も書かれたとのこと、驚き、たいへん尊敬いたします。

女性として、母親として、子育てをきっかけに同業種、異業種の女性との交流を機に広い人間関係を築かれてきたことも、すばらしいと思いました。

熊崎三枝子先生：化学安全研究者からのメッセージ

さばさばとし印象の熊崎先生は、たくましい感じが印象的でした。研究へ進まれたきっかけとして、サリドマイドの例から「科学知識が人の安全を守る」とわかり、「安全は学問になる」と思われたそうです。

授業内では、ビデオによる実際の事故映像を用いて、災害事例を説明してくださり、安全研究の重要性を感じました。

また、キャリア面においては、労働と安全に関する国立の研究機関で従事してこられた経験から、実務も備えられており、実務と学術の両面から捉えられた内容がたいへん興味深かったです。

そして、家庭と研究といった視点でなはない、「女性の生き方と研究」について教えていただいたように思いました。

*環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻 D2

中村先生の恩師の先生の言葉が胸にひびきました。

「研究者としてプロであるならば、常にヒットを出し続けること、このことなしにはホームランも生まれない」

また、中村先生が研究者として家庭生活との両立における助けとなった同業の先生方の存在、様々な方々との交流があったということもお話にも具体性があり、研究と家庭を維持する上での参考になりました。

熊崎美枝子先生のお話について

現在流通する様々な製品の誕生には、生産工場等における安全の概念が不可欠であるものの、

日本の現在においては、安全の維持にお金がかかるということが今ひとつ通底していないことについての

お話など、日頃忘れがちなテーマに関する内容でした。

また、安全に関する国家間の法律の内容についての比較の重要性や、そもそも人によって安全と思うレベルが

異なるなど、安全に関する概念にもお話が及び、充実した講義でした。

*環境情報学府 環境リスクマネジメント M1

中村栄子先生 「新しい分析手法を求めて」

中村先生は夫のサポートなしで子育てと研究を両立させました。『研究者としてプロであるならば常にヒットを飛ばしつづけ、どんな環境でも研究はできる、置かれた研究環境の中で出来ることを見直せ。そしてやったことは論文にせよ』このメッセージは今の自分に向けての言われたメッセージのような気がいたしました。自分には子どもはいないため、子育てと研究の両立、という苦労はありませんが、現在実家の親の介護と研究の両立に苦しんでおります。幸い車での通学を認めていただいておりますので、自宅-大学-病院-実家、という移動ができます。しかし、親の介護を理由に研究ができない、と逃げているはいけない、と反省いたしました。

分析化学は基礎データを出す仕事で、地味な分野だが、世の中に必要である大切な仕事であり、真摯な態度で実験を続けることが重要である、ということを改めて肝に命じました。そして、家庭と研究の両立をするには、異業種の女性との交流が重要というメッセージも頂きました。私は一人でこつこつ作業することが好きで、人との交流の会に参加するのは苦手です。しかし、研究を続けていくということは、一人ではできない、ということも感じました。大変参考になる良いお話を頂きました。

熊崎美枝子先生 「化学安全研究者からのメッセージ」

化学反応に対する危険について教育は重要で、安全であるということ判断できるこ

とは社会的、経済的利益につながります。「サービスは市場が判断するが、安全は市場で判断でされず、安全はモラルにたよるところもある」という部分に私も納得しました。安全のスケールが違いますが、私も同じようなことを感じております。以前、企業のお客様相談室で消費者相談を受ける業務についておりましたが、そこで受ける相談は、「日本製だとおもって購入したら、中国製だった。安心できないので返品したい」というような相談を何件も受けました。このような相談には、安心であることを説明をしても納得していただかず、結局企業側は消費者の申し出通り、返品に応じることになります。このようなやり取りは企業経営を圧迫し経済を停滞させることに通じます。安全であることを知る学問、危険であることを知る学問を体系的に学ぶことは重要である、と感じています。小学校の授業では身近な危険なものの表示の読みかた等を取りあげ、中学・高校では化学反応の危険、安全であることの評価の重要性を授業として取り上げてほしいと思います。